

## 特色ある学校

### 「長崎よかところ発見！」県内就職支援の取組

—ふるさとの未来を担う人材の育成—

長崎県立鹿町工業高等学校 進路指導主事（前年度）・現 機械科主任 高木 志伸

#### 1. はじめに

本校は、長崎県の北部に位置し、現在、機械科・電気科・電子工学科・土木技術科の4学科を有する工業高校である。昭和37年に開校以来、県内外の産業界に優秀な人材を輩出してきた。校訓は「われ共に学びて道を究めん」であり、この校訓の精神のもと、生徒及び職員が一体となって、工業の専門分野に関する知識・技術・技能を高めあっている。

#### 2. ふるさと教育の取組

##### (1) ふるさと教育で目指すこと

本県の最重要課題は「人口減少」にある。その対策のひとつとして、平成27年度から「県内就職支援」の取組を行ってきたが、昨年度からは、地域との関わりを積極的に持ち、地域と協働してふるさとへの愛着や誇りを持ち、ふるさとに貢献したいという意識を醸成する「ふるさと教育」にも取り組むことにした。

育成したい資質能力としては以下の4項目があげられる。

- ① 地域の未来を担うリーダーシップ
- ② 地域に貢献する力

総務	渉外、連携会議、実施計画、予算配分
研究発表	成果指標の研究、研究成果発表会
調査研究 広報	計画書作成、進路学習テキスト作成 意識調査（企業・卒業生・生徒・職員・保護者） 「長崎よかところガイドブック」作成
授業及び 校内行事	進路学習・公開授業・課題研究
外部連携	外部連携、地域企業説明会、現場実習

- ③ ふるさとへの愛着と誇り
  - ④ 地域から信頼される人間力の伸長
- (2) 研究の組織体制

研究を組織的に進めるために、左下のような体制づくりを行った。

##### (3) 研究の取組内容

研究の取組内容は以下の4項目である。

<b>Plan</b> 計画	(1) 長崎よかところ発見学習計画書作成 (2) 意識調査内容計画書作成・進路学習テキスト計画書作成 (3) 「長崎の未来づくり」講演会の実施計画 (4) 小グループによる地域貢献実施計画作成
<b>Do</b> 調査 実行	(1) 進路学習の実施 ※月に一度の進路学習の実施 ① 地域企業職業いろいろ発見 1年生 ② 地域企業職業人インタビュー 2年生 ③ 地域企業仕事選びのステップ 3年生 (2) 各種校内行事の実施 公開授業・課題研究・企業説明会、鹿工祭 (3) 意識調査 企業・卒業生・生徒・職員・保護者対象
<b>Check</b> 評価	(1) 将来ふるさとの発展に貢献したいという意識向上の生徒の割合 (2) ふるさと教育を行った職員の割合 (3) 地元企業に就職した生徒の割合
<b>Act</b> 改善	(1) 職員研修の実施及び外部連携会議の実施 (2) 成果発表会実施（成果研究発表会・校内課題研究発表会）・改善案等の作成

##### (4) 取組の目標

取組の目標を以下の5項目とした。

- 1) 全校生徒参加による進路学習の実施を行い、主体的・対話的な学びを得る。

- 2) 小グループによる地域貢献実施を行い、地域産業を担う実践力を養う。
  - 3) 地域有識者による講演を行い、生徒・保護者・教職員へのふるさと教育の醸成。
  - 4) 地域企業への職場体験や研修による地域産業の実態を把握する。
  - 5) 課題研究で地域貢献に関する研究に取り組み、地域とふれあうことで、将来、地元で働きたいという意識を醸成する。
- (5) 「進路学習」の取組

1) 進路学習に取り組む意義

社会の激しい変化にも柔軟に対応するとともに、それぞれが直面する様々な課題をも逞しく克服し、主体的に次代を切り開いていく自立した社会人となることが求められている。そこで、1年の段階から「進路学習」を実施し、進路選択について学習を深めることと併せて、地域の多様な人々との協働を通して地元企業のことを知り、ふるさとに貢献したいという意識を醸成し、ふるさとの未来を担う人材の育成を図る。

2) 進路学習の内容

進路学習は毎月1時間の枠で実施している。指導者にはあらかじめ進路指導部から指導内容



図1 グループワークでの討議



図2 作製した「進路学習テキスト」



図3 キャリアノートを用いた進路学習

の説明を行い、準備物の確認をするなどの時間を設けている。

進路選択や自己スキルなどの内容や、長崎の良いところを見出すためのテキストを作成し、指導に取り組んでいる。

3) 進路学習の公開授業を実施

「地元就職について考えるいい機会になった」と述べる生徒が多かった。また、各クラスとも担任がよく工夫して授業を行い、参観者からは「卒業生へのインタビュー」、「先生方の体験談」が良かったとの意見が上がった。



図4 授業アンケートから（生徒の意見）

(6) ふるさと教育・県内就職支援の取組

次に県内就職支援とふるさと教育の実践事例を紹介する。

1) 地域企業説明会

6月に2年生と3年生を対象に、11月に1年生と2年生を対象に、本校において「企業説明会」を実施している。企業の人事担当者等から



図5 企業説明会の様子

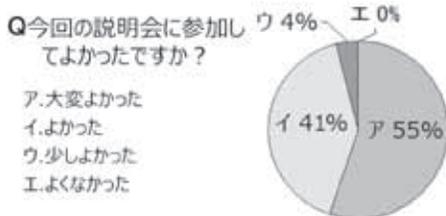
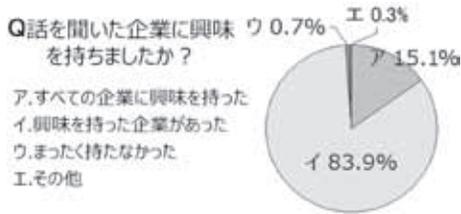


図6 企業説明会へ参加した生徒へのアンケート結果から

会社の業務内容等の説明を直接受ける。体育館、教室、特別教室などを利用して、製造系、建設系別に、生徒の進路希望に合わせて説明を受ける。

## 2) 進路体験発表会

12月には1年生と2年生を対象に、教室やコンピュータ室、視聴覚室において、3年生代表生徒による進路体験発表を行っている。

就職・進学・公務員等へ合格するまでの学習方法や、効果的な取組などの自らの体験談を後輩たちに知らせている。



図7 生徒進路体験発表会の様子

## 3) 「課題研究」での各学科の取組

### ① 機械科「地域進路学習調査研究」

生徒がフィールドワークを通して長崎の観光、歴史や食べ物、地元企業などを実際に訪れ、地元の方や企業の方々に聞き取り・アンケートを行った。その結果を『長崎よかところ発見活動』

としてまとめ、発表した。

② 電気科 交通安全教室用「信号機」の製作  
交通安全教室用の「信号機」を製作して地元の交通安全母の会に寄贈。実際に小学生を対象にした講習会で使用された。



図8 交通安全教室用「信号機」

### ③ 電子工学科「LEDを用いた竹灯籠の製作」

地域の伝統ある地元の祭り「江迎干灯籠」の竹灯籠をろうそくの代わりにLEDを用いて製作した。雨でも消えない灯籠に参加者から歓声が上がった。

### ④ 土木技術科「道守（橋梁等点検）」

地元の市役所等と連携し、橋梁等の打音点検等を行いインフラの長寿命化を図る取組を行った。長崎大学や地元企業なども加わり、「産学官」の協働が現実化している。

## 4) ふるさと教育職員研修

「効果的なふるさと教育とは」のテーマのもと、以下の事項を掲げ、グループ討議を実施した。

- ① 本校で現在実施されている地域貢献（ふるさと教育育成）の取組についての討議
- ② 他校で今までに実施されてきた「ふるさと教育」の取組についての討議
- ③ これから本校が取り組むべき「ふるさと教育」の取組についての討議



図9 KJ法を用いてグループ討議（職員研修）

## 5) 講演会の実施 テーマ「長崎の未来づくり」

地元で活躍する世界的に有名な生態生物写真家や、地域おこし協力隊など町の方々による講

演会を行った。



図 10 「長崎の未来づくり」講演会の様子

### 【生徒感想から】

「今回の講演では、私の最近の悩みでもあった将来について深く考える機会となりました。地元長崎で地域のために働こうと考えることができました。」

### (7) ふるさと教育の成果について

#### 1) 達成指標の結果

生徒・職員・保護者・企業への調査結果

	指標	実績
(1) 将来ふるさとの発展に貢献したいという意識向上の生徒の割合	85%	→ 96%
(2) ふるさと教育を行った職員の割合	100%	→100%
(3) 地元企業に就職した生徒の割合	60%	→53.2%

#### 2) 取組の成果

① 県内就職支援の活動とともに行ってきた全生徒と全職員の参加による「進路学習」の定着化が図られるとともに、ふるさとに関わる内容も導入することができた。

② 新たに地域貢献に関する取組に挑戦したことで、地域産業を担う実践力を培うことができた。また、課題研究の授業の中では、機械科、電気科、電子工学科、土木技術科の専門性を活かした取組が実施でき、各学科と地域との連携が深まった。また、地域から喜ばれる取組を行うことで、地元貢献したいという心が芽生え、さらには、地元就職をしたいと思う生徒が増すということが分かった。

③ 地元企業説明会や地元企業見学会等で得られた情報によって、職員・生徒・保護者の県内企業への理解度が増し、昨年度より県内就職割合が増した。

④ 「長崎の未来づくり」講演会を実施したことで、生徒達は進路選択の大切さを感じ、ふる

さと長崎で働くことへの関心や意欲が高まった。また、企業に対するアンケート調査等を実施したことで学校との関係が深まり、今後、協働で取り組むことへの機運が高まった。

### (8) 「ふるさと教育の体系図」の作成

これまでの取組をもとに「ふるさと教育」の体系図を作成することができた。ふるさと教育の①目標、②育成したい資質・能力、③連携する地元機関、④具体的取組内容、⑤成果指標を記し、3年間を見通した取組を「見える化」している。



図 11 このたび作成した「ふるさと教育の体系図」

## 3. おわりに

生徒達は、ふるさと教育を通して、将来ふるさとの発展に貢献したいという意識が向上した。また、地域貢献活動に取り組む中で、生徒達は進路選択の大切さを感じていた。

また、それらは社会との関わりの中でこそ得られるものであることに気付き、人間的にも大きく成長した。

今後は、作成した「ふるさと教育の体系図」をもとに、さらに全職員が一丸となって、ふるさと教育及び県内就職支援の取組を展開させていきたい。